

白山ふるさと文学賞

第三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生高学年の部 優秀賞

## お母さんの言葉

蕪城小学校五年

伊藤 いと

采由 さいゆ

夏休みに入り、いつも元気なお母さんが、大きな病院に検査を受けに行くことになりました。わたしと妹に、心配をさせないように内緒にしていたようですが、おばあちゃんとお母さんが話しているのを聞いてしまったのです。お母さんが病気になるなんて…考えてもいなかったもので、頭が真つ白なりとても不安になりました。そして、お母さんが元気でいるのをあたりまえに思っていたことを反省しました。もっとお手伝いをたくさんしてあげればよかったです。お母さんがつらい時は自分でできることを、精一杯しようと思にきめました。そして、妹とケンカせずに、仲良くしようと思いました。お母さんの病気は、大きな病気ではなかったので安心したのですが、これからは、お母さんを助けなければならないような自分になろうと思いました。

わたしのお母さんの仕事は、保育士です。わたしが一年生の時に保育園の先生の資格をとりました。保育園の先生はお母さんの小さいころの夢で、わたしと妹を生んで育てていくうちにもう一度、その夢に挑戦したいという思いが強くなっていったそうです。家でご飯を作ったり洗たくやそうじをしながらも、毎日、勉強していたお母さんはすごいと思いました。お母さんは、保育園のお仕事が大好きだと言っています。お母さんは、「努力をしてがんばる事は必ず自分の自信につながる」とわたしによく言います。わたしは、その言葉を聞くとあきらめずにがんばろうと言う気持ちになります。

わたしの将来の夢は看護師です。わたしが看護師になりたいと思っただけは、一年生の時に川崎病になり入院した時に看護師さんの、働く所を見たことです。看護師さんはいつもいそがしそうなのに、やさしい笑顔で話かけてくれました。初めての入院をしたので、点きも痛くてこわがっていたわたしは、看護師さんのやさしい笑顔に勇気をもらいました。看護師になることも、看護師のお仕事をしていくことも、とても大変だと思いますが、お母さんがいつも言っている「努力をしてがんばる事は必ず自分の自信につながる」という言葉を思い出しながら

ばりたいと思います。そして、わたしが看護師になったら、かん者さんの心が明るくなるような笑顔とやさしさを忘れないうちでいいと思います。今のわたしは、人がたくさんいたり、初めて会う人だったりすると、きんちようして笑うことができなくなることがあります。そんな時、いつもお母さんが言ってくれることは「笑顔は自分も周りの人も幸せになることだからはずかしがることでなくて、いっぱい出しなさい」ということです。お母さんはわたしがなやんだり、困っていると必ず言葉をかけてくれます。わたしはお母さんがかけてくれる言葉でやる気が出たり、うれしくなったりします。まだまだお母さんの言葉通りにはいかなけれど、これもみんな努力だと思っただけです。

お母さんのお母さん（おばあちゃん）はとても明るく、よく笑う人です。だから、お母さんもよく笑うのかなあと思っています。

わたしは、笑い声がいっぱいの中に生まれてきたんだなあと思っています。家族でいると、幸せだなあと思えるのは、笑顔がいつもあるから、わたしが学校から帰ると妹とわたしで学校であった事をいっぱいお母さんに話します。お母さんは「一緒に話したら、わからないから順番でいいよ」と笑って言うくらい競争しているように話します。わたしと妹は、お母さんに話すことがいつもいっぱい、いっぱい聞いてほしくて、競争になつてしまうのです。「家族でいるんなことを話し、帰ってくる」とほつとする場所があるって幸せね」とお母さんは言います。わたしも、家族でいるととても幸せな気持ちになります。笑顔がたくさん家族を大切にしていきたいと思っています。

お母さんが言ってくれたたくさんのお母さんの言葉をわたしはこれからもいっぱい思い出しながら、どんなこともがんばっていきます。笑顔をわすれず、努力をわすれず、夢に向かってがんばっていいこうと思います。